

世界一の「環境先進大学」の社会的責任(USR)を果たすために

環境報告書 2010

Environmental Management Report 2010
MIE UNIVERSITY



概要版



TOPICS 2

世界一の「環境先進大学」三重大学の

3R活動

(Reduce / Reuse / Recycle)

1. レジ袋ゼロプロジェクト
2. 放置自転車・家電製品の再使用プロジェクト
3. 古紙再生利用のトイレトペーパー化・リサイクルシステムプロジェクト

平成20年度 容器包装3R推進環境大臣賞「優秀賞」を受賞

平成19年度から本学が取り組んでいる3R活動について、環境省が容器包装廃棄物の3R推進に資する活動の奨励・普及を図るために設けている「容器包装3R推進環境大臣賞」地域の連携協働部門優秀賞を受賞しました。

受賞の理由は、大学の環境方針と環境目的を実現するため、環境ISO学生委員会が中心となり3R活動を実践。様々な取組を通じて、若年層が身近に環境配慮行動を実践する契機となっている点が高く評価されました。



Reduce

ストップ! 地球温暖化

レジ袋ゼロ

エコバッグの配布、大学生協でのレジ袋の有料化を実施しました。その結果、約20万枚のレジ袋が削減でき、これにより石油約3,500リットル、CO₂約9トンの削減になりました。また、全国で初めてレジ袋を置かないコンビニ「ミニストップ三重大学店」が平成21年10月1日にオープンし、レジ袋ゼロを達成しました。

エコバッグの展示
(平成19年10月)



エコバッグのデザイン募集・投票
(平成19年5月)



エコバッグ配布
(平成19年12月)



キャンペーン開始
(平成19年11月)

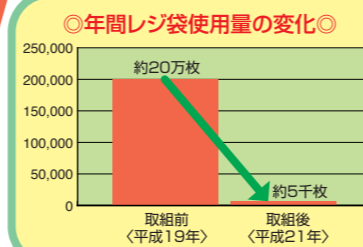


大学生協でのレジ袋有料化
(平成20年1月1日)

レジ袋「0」達成
(平成21年10月1日)



ミニストップ三重大学店



年間約20万枚のレジ袋削減
CO₂約9トン削減

環境ISO活動 (3R活動)

Reuse

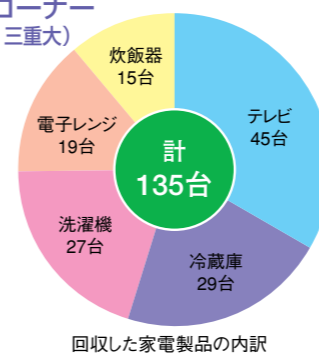
循環型社会

家電製品のリユースプラザ

卒業生の不用となった家電製品5品目(テレビ・冷蔵庫・洗濯機・電子レンジ・炊飯器)を回収し、新入生や留学生に譲渡しました。



家電製品のリユースコーナー
(まわれ!! リユースプラザ in 三重大)



放置自転車の再使用

自転車は、三重大学では非常に便利で大勢が使う移動手段です。しかし、毎年、放置自転車の問題が発生しています。その自転車は、学務部による学内共用自転車、環境ISO学生委員会による無償譲渡という形で再使用されました。



放置自転車かどうかを確認するためのタグの貼り付け



放置自転車の修理



学内専用リユース自転車



取組前



取組後

新しく生まれ変わった自転車を譲り渡しています。(希望者が多く抽選になりました。)

Recycle

古紙の再生利用

皆さんが古紙回収コンテナに投入した古紙は、三重大学のトイレトペーパーの一部に生まれ変わります。身近なリサイクルを実践しましょう!

【回収する種類】

- ◎ 雑誌
- ◎ 新聞
- ◎ チラシ
- ◎ OA用紙
- ◎ お菓子の空箱
- ◎ 500ml以下の牛乳パック



古紙回収コンテナへ!



※新聞紙、チラシはしっかり束ねて!
※雑誌、OA用紙はそのまま!
※お菓子の空箱はつぶして!

エコステーションでは、古紙・牛乳パック・電池・割り箸・インクカートリッジ・ペットボトルキャップ以上6種類のゴミを回収し、リサイクルしています。



三重大学エコステーション

三重大学のトイレトペーパーの約20%を賄える



三重大オリジナルのトイレトペーパーに!



カーボンフリー大学と スマートキャンパス構想

学長メッセージ

三重大学が環境経営パール大賞受賞

三重大学のこれまでの環境に対する取り組みが高く評価され、本年6月には環境経営大賞の中でも最高の荣誉である環境経営パール大賞（第8回）に選ばれました。これまでも多くの環境に関する表彰を受けてきましたが、今回は最高の荣誉であると思います。3R活動、環境ISO学生委員会、環境資格支援教育プログラムなどトップマネジメントとして私（学長）を中心とする全学をあげての取り組みが評価されました。今後、さらに三重大学環境方針（環境ISO）に基づいた、カーボンフリー大学構想、スマートキャンパス構築に向けて全職員一丸となって実現に向けて邁進しましょう。

COP10 in 三重

生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）が本年10月に名古屋で開催されます。三重大学も生物多様性フェアでブースを設けて情報を発信しますし、「COP10 in 三重」としてアジア・太平洋子ども&ユース生物多様性伊勢湾環境会議を三重大学が誇るエコロジー、エコノミー船である勢水丸で、伊勢湾をクルージングしながら海の生物多様性を学び、亀山の里山現地学習を行い、三重大学にて「アジア・太平洋環境教育コンソーシアム」による国際環境教育シンポジウムを開催します。この環境学習には三重大学の学生がリーダーとして加わり、子どもたちへの環境教育が行われます。「環境人財」養成は小学生からスタートし、持続的に行われるべきと考えています。

カーボンフリー大学構想

2009年の環境報告書で「世界一の環境先進大学を目指して」積極的にリーダーシップを発揮していくことが三重大学の社会的責任であると宣言しました。そのため、具体的目標を決めました。2020年までにCO₂排出量を1990年比で30%削減します。1990年から2008年までの増加分、約6%も含めて設備改善で約19%、学内運用改善で14%、学外運用改善で3%が目標の数値です。学内外の運用改善にはエコポイントなどのインセンティブを付与する予定です。本年7月に立ち上げたカーボンフリー大学推進室と環境ISO推進室が両輪となって、地域コミュニティと一緒にこの構想の実現に向けて取り組みます。

スマートキャンパスアライアンス

近未来のスマートグリッド社会を見える化した実証モデル事業研究が大学のキャンパスで実現できればと考えています。エネルギーを創る、エネルギーを活かす、エネルギーを操る、これらをマネジメントするシステムモデルができることを夢んでいます。スマートキャンパスアライアンスを構築し、学内の教育研究情報ネットワークを完成させます。このモデルを使って、エコスクールなど環境教育の普及、啓発、実証研究のフィールド提供など最先端の環境エネルギー教育研究の場を提供し、多くの人財を養成したいと願っています。

スマートキャンパスからスマートコミュニティーへ

カーボンフリー大学やスマートキャンパス構想は地域コミュニティのモデルとなります。

国の新成長戦略の中でグリーンイノベーションは柱の一つです。グリーンイノベーションによりスマートグリッド社会が形成されることとなりますが、その社会とはどのようなものなのか多くの市民はイメージできていないのが現実です。その「見える化」が大学の役割であると考えています。われわれの構想は間違いなく次世代の持続可能な環境社会実現の先駆となることを信じています。その実現に向けて三重大学教職員学生全員で努力します。

今春のことです。受験生の両親が三重大学のキャンパスを見て、「ワー、なんて綺麗な大学なんでしょう」と言ってくれました。大学への来訪者や地域の皆さんが「クリーンだな」「美しいな」「緑が多いな」「勉強や研究がしやすいそうだな」と言ってもらえるようなキャンパスであるためには教職員、学生の環境についての意識が大切です。その自覚をいつまでも失うことのないようにわれわれは常に情報を発信し続けます。



平成22年9月
三重大学長
最高環境責任者

内田 淳二



特集1

三重大ブランドの環境教育

パート1. 環境資格支援教育プログラム

「環境資格支援教育プログラム」
(平成19年度より実施)
地域に認められる環境人財の養成

- 1 平成21年度の「環境資格支援教育プログラム」関連科目
受講生数2,659名(全学部生数6,200名の約42.9%)、単位
取得者数2,123名(約34.2%)
- 2 平成21年度の「環境内部監査員養成セミナー」開講
平成21年度学生環境内部監査員登録者数77名
- 3 「環境インターンシップ」受け入れ先の拡大
シャープ株式会社、中部電力株式会社、三重県、三重県環境保
全事業団(三重県地球温暖化防止活動推進センター)など
- 4 平成21年度の「環境資格支援教育プログラム」修了者
16名(4年生1名・2年生10名・1年生5名)



第2次環境資格支援教育プログラム修了証書授与式
(平成22年3月31日)



国連気候変動枠組条約第15回締約国会議(COP15)
(平成21年12月7~18日、コペンハーゲン・デンマーク、COP15会場前)



世界青年の船(オマーン・オーストラリア・三重大学)
(平成22年1月15日、三重)

パート2. 国際環境教育プログラム

「国際環境教育プログラム」
(平成20年度より実施)
国際的に通用する環境人財の養成

- 1 「実践英語特別授業」の実施(毎週木曜日)
英語で専門知識を勉強できるような基礎取得と国際的コミュニケ
ーション能力の強化
- 2 「国際環境インターンシップ」受け入れ先の拡大
韓国の16企業(三星、現代、LGなど)、NPO法人、国連関連機関
(ユネスコ、国連気候変動枠組条約、国連生物多様性条約など)
- 3 「国際環境インターンシップ」の実施
国連気候変動枠組条約第15回締約国会議(COP15、コペン
ハーゲン・デンマーク)に学生4名派遣
- 4 国際環境教育ワークショップ及びシンポジウムの開催
(平成21年10月23日)
「アジア・太平洋大学環境教育コンソーシアム」の構築、平成22
年度現在9カ国33大学へ拡大(アメリカ・インドネシア・オーストラ
リア・韓国・タイ・中国・モンゴル・ロシア・日本)



アジア・太平洋大学環境コンソーシアム(平成21年10月23日)

本取組は、「環境資格支援教育プログラム」の充実化や「国際環境教育プログラム」の確立と実施による優れた環境人財を育成し、プログラム修了時に取得できる学内環境資格を、地域に根ざし世界に通用する三重大ブランドの環境資格と位置づけることで、質の高い環境教育プログラムの構築と環境PDCAシステムの確立を目的としています。

【ホームページ：<http://mie-brand.ee.gp.mie-u.ac.jp/>】



特集2

「COP10 in 三重」生物多様性環境座談会

日時：平成22年8月5日(木) 10時～12時

場所：学長室

司会進行：朴 恵淑学長補佐

(環境ISO担当・総括環境責任者)

「COP10 in 三重」生物多様性環境座談会が学長室で開催され、今年10月に開かれる生物多様性条約第10回締約国会議のパートナーシップ事業として実施する「COP10 in 三重」を中心に話し合いました。参加者が日頃から行っている環境活動が生物多様性にどう関係し、また支援しているかについて様々な説明があり、「COP10 in 三重」を支援していくことで意見が一致しました。

(詳細は三重大学環境報告書2010 特集2 P18～22を参照)

内田淳正 学長(最高環境責任者)

三重大学は「世界一の環境先進大学」を目指して環境活動を推進しており、今行っている活動は未来に向けた流れの中での取り組みとなっています。「環境資格支援教育プログラム」もその中の1つで、卒業後も社会に出て様々な環境問題に対して先進的な取り組みを続けていける環境人材をより多く養成しています。

後藤正和 理事・副学長(企画・環境担当)

「COP10 in 三重」の特徴は、オール三重として三重県全体で取り組むこと、価値観の共有できる事業内容であること、学生が中心となって事業を展開していくことの3点です。

伊藤朋江 COP10学生実行委員会委員長

COP10学生実行委員会は、3つの班に分けて、「COP10 in 三重」活動班、研究班、情報班で活動しつつ連携をとり合いながら進めています。

濱崎 翼 COP10学生実行委員会副委員長

COP15の経験を踏まえて、COP10では環境問題をいかに人にわかりやすく伝えるか、というのが中心のテーマです。

深谷百合子 シャープ株式会社

亀山環境安全推進センター副参事

昨年から地元の小学生などに工場見学と環境教育の融合した事業を行っています。「COP10 in 三重」でも環境教育を実践することとなります。

内藤修久 中部電力株式会社

環境部環境経営グループ課長

「COP10 in 三重」のシンポジウムでは宮池副社長が記念講演を、また、子どもたちを対象とした環境・エネルギー教育も行います。



国分 純 亀山市環境・産業部長

「COP10 in 三重」では亀山の里山公園で池干しをしたり、外来種であるザリガニを釣ったり、関宿での文化体験や日本の食文化を見てもらうためのもちつき、ポン菓子づくりも考えております。

荒木大輔 環境ISO学生委員会地域連携部長

今年の北立誠小学校での環境学習は生物多様性をテーマに進めることにし、第1回目には身近な環境である志登茂川の水質調査を行いました。

谷村 篤 生物資源学研究科・生物資源学部教授

「COP10 in 三重」では勢水丸を使った伊勢湾洋上環境教育もあります。伊勢湾は内湾で生物の多様性は低い海ですが、伊勢湾にしかない生き物も多いのです。

土井理成 かめつぶり副代表

出前授業として小学校へ行ったりイベントを開いたりして、ウミガメの産卵巣を見つけたらどう対処するか、ウミガメの産卵にはなにが必要かなどを教えています。

松月清郎 株式会社御木本真珠島真珠博物館長

廃棄物で海を汚してはいけないと考え、アコヤ貝殻は工芸品や化粧品に、食用以外の貝の身と貝への付着物は堆肥化してリサイクルしています。

羅 貴子 留学生(韓国世宗大学校)

COP10についてはすばらしい催しなので、小学生や中学生も参加できればより良いのではと思います。環境問題を考えることは小学生の頃だけではなく、継続してやるべきです。

森本 彰 財団法人三重県環境保全事業団理事

今回のCOP10では、愛知県名古屋市だけでなく、三重県の地で、三重大学を中心としてたくさんの方に参加してもらうことに意義があると思いますので、事業団として全面的に協力します。

平野穂波 環境ISO学生委員会委員長

環境ISO学生委員会は学内・学外問わず3R活動など様々な環境活動を行っておりますが、特にCOP10にむけてアジア・大平洋の子どもとユース環境会議の成功に向けて進めています。



TOPICS 3

カーボンフリー大学

2020年(平成32年)までに1990年(平成2年)比で30%の二酸化炭素を削減目標とし、カーボンフリー大学を目指します

「世界一の環境先端大学」を掲げている本学において、省エネルギー中長期計画を策定するため平成21年度に「省エネルギー計画検討委員会」を発足し、本学における省エネルギー中長期計画を検討しました。その結果、平成32年までに平成2年比で30%の二酸化炭素を削減する中長期計画を策定しました。

平成2年から平成20年までに増加した約6%も含めて、病院の再開発を中心に機器を高効率化に更新することにより約19%、エコキーパーやエコポイントを中心とする活動による学内の運用改善で約14%、卒業生や地域の人々の活動による運用改善で約3%の削減ができると試算しています。

CO₂削減量試算 — 1990年比(平成2年)

2020年(平成32年)時点のCO₂削減量積み上げ試算結果 — 1990年比(平成2年)

削減項目	削減率	削減寄与率
設備改善	19.3%	
病院再開発	10.3%	
件名		削減寄与率
エネルギーセンター		8.8%
病棟・診療棟(Ⅰ期)		1.0%
外来・診療棟(Ⅱ期)		0.5%
機器の更新	9.0%	
件名		削減寄与率
平成21年度改修工事		0.4%
井水導入に伴う省エネ機器更新		0.3%
省エネルギー対策経費による機器更新		1.0%
ボイラーの廃止(生物資源学部校舎)		0.9%
空調設備・照明設備を全て更新した場合		6.4%
学内運用改善	14.0%	
省エネ活動を実施		14.0%
学外運用改善	3.2%	
家庭での運用改善によるCO ₂ オフセット		3.2%
基準年1990年(H2)以降の努力による削減(1990年から2008年まで)		-5.8%

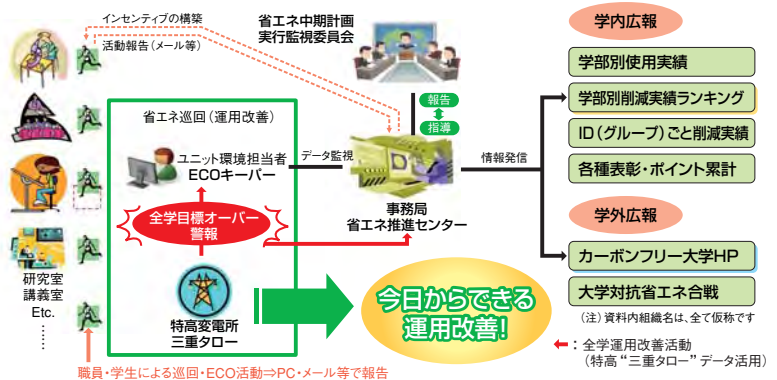
2020(H32)年までに30.7%の削減(1990(H2)年比)が可能

本学を中心に省エネの輪をつくり、地域コミュニティと連動して二酸化炭素削減に取り組みます

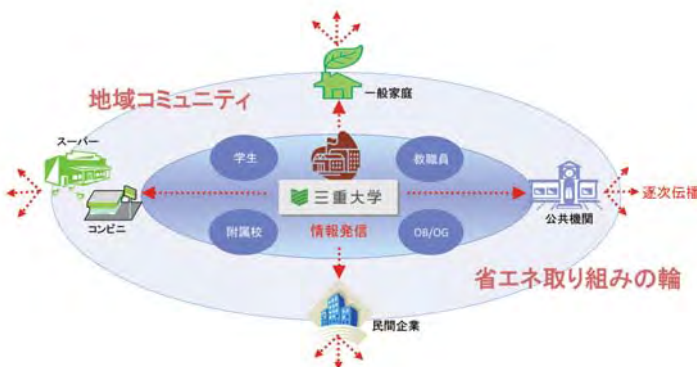
本学では、以前から環境ISOの体制のもとに省エネルギーに対する取り組みが実施されてきましたが、タイムリーに省エネ活動が出来るように各ユニット内でエコキーパーを配置し、より一層の省エネ活動が実施出来るようにしました。

学内で行う運用改善については、『電力の見える化(三重タロー)』のシステムを導入し、これにより目標電力使用量管理を行います。電力が目標値を超える前に警報メールが自動送信され、ユニット環境担当者及びエコキーパーは身の周りの空調設備の温度設定や、不要な電力が使用されていないか省エネ巡回を行います。

「学内運用改善施策」の全体像(概念図)



カーボンフリー大学「学外取り組み」



学内で行う運用改善として、「カーボン・オフセット」の取り組みについて今後検討を行います。大学関係者や地域コミュニティのメンバーが連携して「三重大学発信・省エネの輪」を逐次伝播する大規模な取り組みに展開していきたいと考えています。

平成22年6月15日には、学長より大学が一丸となって「カーボンフリー大学構想」を進めるため説明会を開催しました。また、7月1日よりカーボンフリー大学推進室を設置し省エネルギーに向けた具体的活動を開始しました。



TOPICS 1

環境関連受賞

「第8回日本環境経営大賞環境経営部門最優秀賞」環境経営パール大賞を受賞

日本環境経営大賞は三重県が主催し、地域における「環境経営の発展」と「環境文化の創造」を趣旨として、事業規模の大小や業種・業態にかかわらず、全国の企業（事業所）、NPO、学校、病院などのあらゆる組織体の環境経営の取り組みの中から、その“さきがけ”となるものや優れた成果をあげている事業所を表彰するものです。

全国72件の応募の中から、大学として初めて最優秀賞であるパール大賞を受賞しました。本学が受賞した「環境経営部門」は、

- 1) 環境経営と持続可能性
- 2) 経営トップのコミットメントと実践体制
- 3) 事業活動全体にかかわる環境負荷低減の取組と成果

を評価基準として審査され、総合的にバランスのとれた持続可能性の高い経営につながっている組織を表彰するものです。本学は平成19年に国立総合大学では初となるISO14001の全学部一括認証取得を果たしたこと、世界一の「環境先進大学」を目指し、環境ISO学生委員会を中心とした3R活動・「三重大ブランドの環境教育」による環境資格支援教育プログラムや国際環境教育などが高く評価されたものです。

平成22年6月1日、津市内のホテルで表彰式が開催され、内田淳正学長が表彰状とトロフィーを受け取りました。また、受賞記念パネルディスカッションが開催され、内田学長が「三重大大学の環境活動について」説明をしました。



日本環境経営大賞表彰委員会 山本良一委員長(右)と内田淳正学長(左)



表彰式



賞状

COP10 in 三重

1. 三重大学ブース設置 2010.10.11(月)～29(金) COP10会場(白鳥公園)
2. アジア・太平洋子ども&ユース伊勢湾環境会議 2010.10.14(木)～15(金)
(勢水丸・亀山里山公園(みちくさ)・関宿・シャープ株式会社)
3. アジア・太平洋環境コンソーシアム1周年記念
COP10国際環境教育シンポジウム
2010.10.16(土)(三重大学)
4. 生物多様性エクスカーション
2010.10.17(日)(鳥羽水族館・御木本真珠島・海の博物館)
5. アジア・太平洋COP10環境フォーラム
2010.10.18(月) COP10会場(名古屋学院大学)



亀山里山公園(みちくさ)



勢水丸



- 本報告書は、印刷には環境に配慮したページタブリンキを使用しています。
- 印刷工程では、有害廃液を出さない水なし印刷方式を採用しています。

三重大学環境ISO推進室
〒514-8507 津市栗真町屋町1577 TEL 059-231-9223 FAX 059-231-9223
contact@iso.mie-u.ac.jp http://www.mie-u.ac.jp/